

稲城野草散策の会

野草スケッチ ナワシロイチゴ（実）（バラ科）



1996/07/31 稲城市坂浜 絵と文 Ta

木苺とは、バラ科キイチゴ属の総称である。

日本には40種ほどあり、どれも食べられるという。

多摩丘陵にあるのは、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ（掲載済）、ニガイチゴ、クサイチゴが主なところである。

ニガイチゴ、クサイチゴについてもいずれ紹介しようと思う。

会報第67号 2010年7月25日発行 発行責任者 尼子 房夫

キイチゴの仲間はほとんどが刺を持った低木である。
日当たりを好むため、林の中には生えず、林縁や石垣などに多い。
これもマント群落（エビツルの項参照）なのだ。
稲城では、多摩川の河川敷・・・ここも日当たりは抜群・・・にも群生している。

話は変わるが、江東区にある都立木場公園の一隅に「帰化植物園」なるものがある。

家庭菜園みたいな区画の中にとこ狭しと帰化植物が植えられている。
埋立地などに出現した帰化植物を集めたものだそうだ。
草花は消えたり移動したりするので、植物名を書いた看板をちゃんと立てておくだけでも、苦勞が絶えないのではないかと思う。
ここを管理しているのはボランティア団体「江東植物愛好会」だ。
帰化植物について勉強したいときには、木場公園へ行くとよい。
ボランティアの方が親切に教えてくれるし、隣接した建物「ミドリアム」には図鑑類も取り揃えてある。
講演や観察会などのイベントもある。

帰化植物園を見ているだけで、図鑑には出ていない謎の植物が簡単にわかったりする。

逆に、あまりにもたくさんの帰化植物を一気に見て、パニックになることもある。
ここへはパソコン通信仲間と何度か訪れた。
ボランティアのHさんには毎回説明いただいて、すっかり顔なじみになった。

ある夏の日、多摩川でメマツヨイグサをスケッチをしていた。
話し声がして顔をあげると、オバチャンの団体がいる。
どうも、植物観察をしているらしい。
そのうちにナワシロイチゴの実を見つけて、採りだした。
ここには大量にあるのだ。
わあわあ言って、夢中で集めている。

よく見れば、木場のHさんがいる。
彼女がリーダーで、稲城のフィールドを観察しているところだという。
しばらく話をした。
稲城へもときどき来ているらしい。

「稲城はいいところですね。植物が豊富で」とうらやましがられた。
自分のフィールドをほめられると、やっぱりうれしい。

「そうでしょう」と調子に乗って、いろいろな花情報をお話したら、稲城のどこに何があるか、ほとんどご存知の様子である。

う～む、あなどれない。

いままであまり行き会ったことがなかったが、稲城をフィールドにしているグループはかなりあるのではないだろうか。

そういう人たちとの交流もしたいが、その前に、もっともっといろいろな人に来て、見てもらいたいものだと思った。(2000年7月記)

* * * * *

〔観察記録〕 6月5日 芦ヶ久保

午後から雷雨の可能性ありという天気予報でしたが、うまい具合に予報は外れ、湿度の低い快適な観察日和となりました。池袋駅から西武の快速急行で1時間半、秩父のすぐ隣という遠方での観察会でしたが、31名の参加がありました。

芦ヶ久保駅を出発し横瀬川を渡ると、農村公園近くの山道に入るまでひたすら登り、農村公園の朽ちかけた橋を渡ってからもひたすら登り、12時15分頃に山の花道駐車場に到着して、周辺の木陰で昼食をとりました。午後は、駐車場裏を一気に登って日向山(ひなたやま)の尾根筋へ。この尾根筋は樹種も豊富だし、それよりなにより、とても雰囲気のある広葉樹林で、何度訪れてもうれしくなる散策路です。

日向山山頂の標高は633メートルとあります。この日のコースの一番低いポイントである横瀬川に架かる橋が標高305メートルですから、標高差はざっと330メートル、東京タワーのてっぺんまで登ったこととなります。東京タワーといえば、現在建設中の東京スカイツリーは完成すると634メートル(△サシの語呂合わせの数字なのだそうですが、押上のあたりは武蔵国ではなくて下総国なんだけどなァ)、日向山山頂とほぼ同じ高さになります。逆にいうとスカイツリーがいかに高い鉄塔なのかに驚かされます。

尾根筋からはひたすら下りとなります。琴平神社までは段差の大きい階段が続きます。神社下で小休止した後もひたすら下り、源寿院埼玉別院の大観音で小休止して芦ヶ久保駅下の道の駅で解散となりました。道の駅で立派なタケノコをゲットした参加者もいらしたようです。

今回の観察会は世話役の人数も少なく、雷雨の可能性ありということで、運営

に懸念もあったのですが、幸い天気予報は外れ、名札貼りを引き受けてくださった西川さん、アナウンス嬢をつとめて下さった浅岡さん、名札回収&しんがりを
お願いしたベンスリーさんを始め、ご参加の皆さんのご協力を頂いたおかげで、
とどこおりなく観察会を終了することができました。皆さまのご協力を改めてお
礼申し上げます。(とーはもん)

▼以下にアナウンスのあった植物名を列挙します。

(1)クサノオウ(花)、(2)カニツリグサ、(3)オヤブジラミ(実)、(4)オニグルミ(実)、
(5)オノマンネングサ(花)、(6)ノゲシ(花)、(7)アメリカフウロ(花)、(8)トウダイ
グサ(花)、(9)ノミノグツリ(花)、(10)ノビル(花)、(11)ノイバラ(花)、(12)ケン
ポナシ、(13)マスクサ、(14)キショウブ(花)、(15)ナワシロイチゴ(花)、(16)ハ
コネウツギ(花)、(17)スイカズラ(花)、(18)ナツグミ、(19)テリハノイバラ、(20)
アラカシ、(21)キハギ、(22)イボタノキ(花)、(23)マルバウツギ(花)、(24)ダン
コウバイ、(25)クサボタン、(26)ヤマユリ、(27)ピラカンサの一種(花)、(28)
イタヤカエデ、(29)キツタ(実)、(30)ニワゼキショウ(花)、(31)オニウシノケグ
サ、(32)クサソテツ、(33)ガマズミ(花)、(34)イヌワラビ、(35)ヤブデマリ、(36)
タチドコロ(花)、(37)ヤマカシュウ、(38)タチシオデ、(39)キヌタソウ、(40)
マルバアオダモ、(41)ハリギリ、(42)アワブキ、(43)フタリスズカ(花)、(44)
ベニシダ、(45)クロモジ、(46)クマワラビ、(47)カシワバハグマ、(48)ニガキ、
(49)キバナアキギリ、(50)イカリソウ、(51)ウツギ(花)、(52)コゴメウツギ(花)、
(53)ナンテンハギ、(54)ニガイチゴ、(55)オケラ、(56)センボンヤリ、(57)ア
ケボノスミレ、(58)ニシキシダ(イヌワラビの品種)、(59)ツルニンジン、(60)
オオハナワラビ、(61)ナツノハナワラビ、(62)シロダモ(実)、(63)エノキ、(64)
ツノハシバミ(実)、(65)ノアザミ(花)、(66)ユズリハ(実)、(67)ロウバイ(実)、(68)
ツルマンネングサ(花)、(69)キブシ(実)、(70)ウマノアシガタ(花)、(71)コウゾリ
ナ(花)、(72)ニガナ(花)、(73)サンショウバラ(花)、(74)ニセアカシア、(75)キ
ツネアザミ、(76)ジシバリ、(77)タガネソウ、(78)ジュズスゲ、(79)ハナニガ
ナ(花)、(80)ヤマボウシ(花)、(81)ニシキギ、(82)リョウブ、(83)ツクバネウツ
ギ、(84)アズキナシ、(85)クマヤナギ、(86)ウワミズザクラ、(87)ムラサキシ
キブ(花)、(88)サワシバ、(89)イヌザンショウ、(90)クマイチゴ、(91)イヌシデ、
(92)ミヤマナルコユリ(花)、(93)ジュウニヒトエ、(94)ヒメハギ、(95)オケラ(単
葉と複葉)、(96)ツクバネ(花)、(97)ヤブレガサ、(98)オトコヨウゾメ、(99)カ
シワ、(100)クマシデ、(101)コアジサイ(花)、(102)マムシグサ(花)、(103)エ
ゴノキ、(104)ズミ、(105)カマツカ、(106)クマノミズキ、(107)ウグイスカ
グラ、(108)カワラスゲ、(109)キクバドコロ、(110)マユミ、(111)ヒヨドリ

ジョウゴ(直立していた)、(112)オカトラノオ、(113)ヤブコウジ、(114)メギ、(115)ツルウメモドキ(実)、(116)タニウツギ(花)、(117)ヤブヘビイチゴ(実)、(118)タムラソウ、(119)サルマメ、(120)サルトリイバラ、(121)サルナシ、(122)コバノガマズミ、(123)イチヤクソウ(花)、(124)ヤマウコギ、(125)ヤワラスゲ、(126)番号飛び、(127)ネコハギ、(128)コモチマンネングサ(花)、(129)ノボロギク(よーはもん)

日向山の尾根筋にたくさん見られたマンサク科らしき植物ですが、4年前の観察会でも悩んでいました。

その折の会報を見直していたら、Taさんは以下のように結論づけていましたね。

マンサク科の植物をコウヤミズキと判定した理由：

1. 葉の形、大きさ、その他の特徴からして、「なその樹」は、トサミズキかコウヤミズキと思われる
2. トサミズキには枝、葉柄などに星状毛がある
3. 私の撮った拡大写真には星状毛が見当たらない
4. よって、該当樹木はトサミズキではなくコウヤミズキ

コウヤミズキの分布は「中部地方以西、中国、四国」なので分布からみるとおかしいですが、あのあたりには植生と思われる樹木もありましたので、栽培からの逸出ではないのか、と思っています。(Ta・会報第18号 2006年6月18日発行)

▼サルマメ

サルマメは関東ではあのコースでしか見たことがありません。

他のフィールドにもありそうですが、よほど注意していないと見逃してしまうのでしょうか。(Ta)

〔行事予定〕 2010/8/5 (木) 池の平

今年のバスハイク観察会は、山梨県の「池の平」です。お目当てはコマクサ。そのほかにマツムシソウ、リンドウ、クルマユリ、ハクサンフウロ、クガイソウ、ウメバチソウ、ワレモコウ、ヤナギラン、ノアザミなど、沢山の野草たちが咲いていると思います。期待して下さい。

集合はいつもの京王線調布駅北口7時半です。

参加御希望の方は、内山会長に申し込んで下さい。

〔行事予定〕 2010/7/25 (日) 駒沢学園周辺

項目	説明
集合	am10時、京王相模原線稲城駅 改札口付近 ※会旗目標 稲城駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で4駅目 多摩モノレールの場合、多摩センター駅で京王線に乗換えて3駅目 小田急線の場合、永山駅、または多摩センター駅で京王線に乗換え 稲城駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	稲城市坂浜地区、清水谷戸（下の地図を参照ください） 京王相模原線稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	ヤマユリ。コースの途中何ヶ所かでツリフネソウが見られます。駒 沢学園構内ではオケラもあると思います
地図	
コース	稲城駅→百村→駒沢学園・学園広場→清水谷戸→高勝寺→稲城中央 公園→百村→稲城駅（解散） 行程5～6km、多少のアップダウンがあります（標高差100m 以下） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円